

KA教育3D主催 『第2回情報交換会』開催レポート

ダイジェスト版

教育現場の教員を中心に約 50 名ほどが参加

「エゴグラムによる教育プログラム」導入の情報交換会

本年 2 月 25 日（土）、東京都千代田区大手町にある KKR ホテル東京の白鳥の間にて KA 教育 3D 主催「第 2 回情報交換会」が行われた。

「エゴグラムによる教育プログラム」を開発している株式会社 KA 教育代表取締役／菊地淳氏は同会についてこう語っている。

「“全入時代”を目前にし、転換期の今、再び「何のために学ぶのか」を問い直すことが非常に重要になってきています。KA 教育では『エゴグラムによる教育プログラム』をご導入頂いている学校の先生方に対して、他の学校のプログラム実施状況やそこにおける問題点あるいは改善点等をはじめとする情報交換の場として、平成 15 年度から一部の先生方のご支援、ご協力を頂きながら、定期的に『3D 懇親会』を開催して参りました。そして平成 17 年度から、この会を「情報交換の場」というだけにとどまらず、「エゴグラムによる教育プログラムを学習する場」という位置付けで、充実した情報交換会を開催しております」

こうした背景の中、今回 2 回目となる情報交換会。会場には「エゴグラムによる教育プログラム」を導入・実践する学校から教育現場の教員を中心に、企業経営者などの参加も見られ、約 50 人ほどが参加し、さまざまな教育現場での実践状況や改善点などが報告された。他校の実施状況や成功ケースのノウハウ、問題点やその改善法などさまざまな角度での話が出る中、非常に有意義な会となった。

会の進行は㈱KA 教育／教育サービス本部長の菊地マリ子氏の司会で進められ、第一部が研究会、第二部が懇親会の内容となった。



第2回実践報告会の会場となった
東京都内にあるKKRホテル東京



会場には教員を中心に企業経営者
など約50名が参加

KA教育3D会長挨拶

順天中学・高等学校 副教頭 片倉 敦先生

生徒に“生きる力”を与える具体的方法がグループコミュニケーション

第一部の冒頭、KA 教育 3D 会長の片倉敦氏（順天中学高等学校副教頭）より開催の挨拶があり、これからの教育が生徒に与えていくべき「生きる力」について触れ、それを養っていく意味でのグループコミュニケーションの必要性を訴えた。

また、「エゴグラムによる教育プログラム」を導入・実践している学校関係者が集う今回の実践報告会が目指している方向性と現在の教育界が進むべき方向性が変わらず同じベクトルであると語り、同会を通して今後の更なる活発な活動をしていきたいと語った。

挨拶の中、片倉氏は生徒が“生きる力”をつけていくためのグループコミュニケーションの必要性を次のように語っている。

「生きる力とは何かと考えた場合、それは意欲を持つということになります。では意欲とは一体何なのか、それは強い意志を持つということでしょう。ではその強い意志を持たせるためにはどうしたらよいのかという話になると話が曖昧になってしまいます。その具体的な方法論があまり出てきていないというのが現実です。

このグループコミュニケーションをやっていきますと、自分たちの強い意欲と



グループコミュニケーションの必要性について語る
KA 教育 3D 会長でもある順天中学高等学校副教頭の片倉 敦 氏

いうものが出てきます。エゴグラムに取り組む姿勢そのものが心のエネルギーを高め、これが意欲へとつながっていきます。

『エゴグラムによる教育プログラム』を通して、意欲をもって社会に出て行く生徒を育てることにつながっていくと私は思っております」

そして最後に、この研究会が、

グループコミュニケーションによる成果、どういうやり方でどういう目的でどういふことをやっていったらよいのかということに対し、具体的な方向付けをしていけるような場にしていきたいと今後への抱負を語った。

教育の目的＝生徒に“生きる力”を与えること



やる気、意思を持たせていく



具体的方法論＝グループコミュニケーション

実践報告

トキワ松学園中学高等学校学年主任 中山正秀先生

トキワ松学園におけるエゴグラムによる教育プログラムの実践

続いて、今回の実践報告会のテーマでもある「エゴグラムによる教育プログラム」の実際の教育現場での実践報告として、トキワ松学園中学高等学校（東京都目黒区）における取り組みの様子が紹介された。同校学年主任の中山正秀氏が登壇し、プリント資料やビデオ映像を通して同校におけるグループ学習の様子を詳細にレポートした。

中山氏は体育科の教員で、体育の授業の中でプロジェクトアドベンチャーと呼ばれるアメリカの教育プログラムを取り入れている。これは体を動かしながらゲームを行い、振り返りながら、ゲーム中の行動や発言が正しかったのか、他の人に対して傷つけていないかどうか、自分を高めるためにどのようにしていくのかなどを振り返る学習のことをいう。同校は平成10年からこのグループ学習を取り入れているが、これがKA教育のグループ学習と共通する部分があり、持っている目的はほとんど同じであると中山氏は語る。

ビデオ上映では同校のグループ学習の様子を撮影したものが流され、3つのゲームを行う生徒の姿が映し出され、それぞれのゲームの目的や実際にゲーム中に生徒がどのような動きをしたか、どのような発言があったか、また、中山氏が生徒へどのような言葉をかけたのかなど詳細なレポートが行われた。

最後に、今後、生徒と教員の双方が取り組みやすい内容のグループ学習を作っていくべきであると語った。「KA教育のプログラムにある座学や、話し合いで行うグループ学習の効果と、（ビデオで紹介した）走り回って皆で楽しみながら行うゲームの効果と、実は重なり合う部分が多く、求める所も同じものがたくさんあります。今後、このグループ学習において、菊地さんのほうでもたくさんのグループ学習のレポートリーを増やしていくとお聞きしています。先生方が作られたもの、いろんな所から取り入れたものを増やし、また、こういう場で情報交換する中、新しいもの、目先の変ったものなどを導入することで生徒、また、それを実施する先生方のほうでも取り組みやすくなっていくと思います」



プロジェクトアドベンチャーと呼ばれるグループ学習の取り組みを紹介するトキワ松学園学年主任の中山正秀氏



ビデオ上映をしながらトキワ松学園でのグループ学習の様子が詳しく紹介された

各校の取り組みの現状や教員間の温度差など

様々な角度からの意見が出たパネルディスカッション

【進行】片倉 敦 氏

【パネラー】

京華中学高等学校 進学指導主任 樋口 元 氏

立正中学高等学校 生活指導部長 石井公一 氏

トキワ松学園中学高等学校 学年主任 中山正秀 氏

KA 教育 代表取締役 菊地 淳 氏

パネルディスカッションでは KA 教育 3D 会長の片倉氏が進行を務め、4 名のパネラーと共に各校での取り組みの状況や教員間の温度差、またそれを解消するための取り組みなどの話が上がった。また、グループ学習による成果報告の他、会場に参加した教員からも意見や質問が出るなど充実したパネルディスカッションとなった。



懇親会

第1部の研究会の終了後、会場を移して懇親会を行いました。

大変大勢の方にご出席いただき、参加された方同士の交流を深めると共に、リラックスした雰囲気の中、自己紹介や各学校の現場での状況など、さまざまな情報交換の場となりました。



出
来
る
・
大
丈
夫
・
大
成
功

KA教育3D研究会
2006. 2.25 KA教育3D第2回情報交換会

株式会社KA教育
〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03-6784-7675